

第9回 防衛施設整備に関する有識者会議
議 事 概 要

1 日時等

- (1) 日 時：令和5年9月19日（火）15時30分～17時00分
- (2) 場 所：防衛省庁舎E1棟8階 会議室C
- (3) 出席者：

【委 員】

- 藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科教授）〔会長〕
- 谷口 綾子 （筑波大学大学院システム情報工学研究科教授）
- 成田 一郎 （（公社）日本ファシリティマネジメント協会専務理事）
- 横田 弘 （北海道大学名誉教授）

【防衛省】

大臣官房施設監、大臣官房審議官、施設計画課長、施設整備官、
提供施設計画官、施設技術管理官、施設政策室長、契約制度企画室長、
統括事業監理室長、防護施設研究室長、環境影響評価調整官、建設調整官

2 議 題

施設の強靱化の実現に向けて

3 議事概要

施設の強靱化に係る取組状況について、防衛省から説明した後、討議を実施

4 討議概要

（委員）マスタープランの作成過程においては、中長期的な視点も忘れずに、将来の土地利用なども検討されたマスタープランを作って欲しい。例えば、構内道路、司令部庁舎の場所などは、長期にわたって変わらず残っていくものである。他方、隊舎や装備保管庫などは、新たな部隊配置や人員増にも対応できるように、フレキシビリティをもたせた配置計画が必要である。変わらないもの、変わるものを、どのようにゾーニング（配置、設置）していくかの検討がとても重要である。

2点目としては、透明性、公平性の追求ということで、コンプライアンスを遵守し、疑念を持たれることがないように、しっかり事業を進めていかなければならない。

(防衛) ご指摘を踏まえしっかり対応していきたい。

(委員) このような大きなプロジェクトを進めていく上で基本的な整備方針を作成するためには、発注者側の求める仕様や性能などを要求水準書としてどのように作成するのが非常に重要となる。また、これだけ多くの予算が投入される事業となると、民間の力を活用することが非常に大事になる。個別の案件毎において、様々なノウハウが出来ると思うので、それらを共通化し、標準化できるように検討されたら良い。最後に、地元企業の育成も大事である。大企業と組むことにより技術力も継承できるような仕組みとなれば、将来的に施設を維持管理していく上で良いかと思う。

(防衛) 膨大な予算を防衛施設整備に付けて頂くことになるので、第一義的には安全保障の確立ですが、経済対策についても強く使命感を持ち、関係法令による制限の抜本的な緩和に取り組み、しっかりと事業を進めていく考え。

(委員) 最適化事業について、何をどう最適化するのが見えにくい。同一の時期に施設の更新を行うことになると、40、50年後に更新するための予算が不足することも考えられるため、マスタープランの予防保全計画に合わせて、しっかり検討して頂きたい。

(防衛) 最適化とは、施設を更新しつつ、本来保有すべき防護性能を付与していくことであり、技術的事項だけではなく運用側の防衛力整備も含めてマスタープランを作成していくことと考えている。また、今回の施設の更新にあたっては、施設の更新履歴や修繕履歴をデータ化し、関係者が同一のデータにより状況把握し、適切な時期に必要な予算を確保するとともに予算の平準化に留意していく考え。

(委員) 最適化事業の定義やECI方式の活用など、施設の強靱化の取組について、国民に分かりやすい説明ができるように整理されると良い。最適化事業に関して言えば、特に、何を、何の目的の為に最適化するのか、という事を明示することが最低限必要である。具体的に言うなら、「自衛隊のパフォーマンスを最大化するために必要な施設を計画し、実現していく事業」、「限られた時間と予算等の実質的な諸制約条件の中で自衛隊のパフォーマンスを最大化するための施設の在り方を考えていく事業」等の説明が考えられる。

(防衛) 今後、しっかり議論していきたい。

(委員) 地元企業の参入に向けた様々な緩和策を検討し、地元経済を活性化させることは、地方の活性化の点で良いことである。他方、大手企業にとって、不公平にならないようにバランスをとることが大事である。

(防衛) 大型発注における地元企業の参入については、ご指摘の公平性の観点も含め、引き続き、検討していく次第。

以上